



～『ジブンゴト』として捉え、取り組む探究活動の先には～

10月22日（水）、2年生普通科では「総合的な探究の時間」フィールドワークが行われました。それぞれのグループは1学期ではテーマに基づいたリサーチクエスチョンを設定し、先行研究について調べ、仮説を立てました。そして、今回のフィールドワークに向けて各グループは計画や研究手法などについて話し合い、仮説を検証、調査するための準備をすすめました。当日は校外で調査や取材を行ったり、校内では調理や実験を行うなどして、各班は**主体的に取り組み、様々な成果を得ることができた**ようです。

各分野からフィールドワークを振り返って得た学びを紹介します。

フィールドワークでの学びを活かして～振り返りシートより～

【地域と文化】

私たちは、日高川町の活性化のために観光事業や町の魅力について考え、人を呼び込むことができる案を4つ考えた。また、以前にお話を伺った日高川町役場の職員の方からもキャッチコピーを考えてほしいと言っていただいていたので、今後、町の活性化の手助けとなる提案を可能な範囲でしていきたい。

今回のフィールドワークでは日高高校のPR動画をつくりました。授業風景を撮影し、3分程度のものをつくりました。日高高校を受験する生徒を増やすために学校説明会などでこの動画を流したいと考えています。今後は部活動の様子も撮影し、より日高高校のことを知ってもらいたいです。

【地域と産業】



古民家を利用してゲストハウスを経営している方から実際にお話を聞くと色々な発見がありました。私たちが訪れたゲストハウスでは農業体験や調理体験ができ、家族で経営されていました。国内の観光客と外国からの観光客が半分ずつぐらいだそうです。私たちが考える大規模な経営を行うにはかなりの数の従業員が必要であり、英語を話すことができる人が必要だと感じました。このような宿泊施設では従業員と利用客の対話が非常に重要になるため、今後ますます増える外国人観光客に対応できることが求められます。そのような点も踏まえ、和歌山県の観光業を盛り上げるために、私たちは農業を活かした観光についてさらに考えていきたいです。

私たちはミカン農家さんにお話を聞いた。見た目にはわかりにくいが糖度が低い、サイズが合わない、日焼けしているなどの理由で商品にならないミカンがある。そのようなミカンは値段を安くして販売したり、加工場が買い取りジュースにしている。しかし、小さすぎるミカンは加工の際に機械が止まってしまうことがあるため、買い取ってもらえないことがあり、廃棄することになる。今後はそのようなミカンの活用方法を考えて提案していきたい。

【地域と防災】



私たちちはフィールドワークの前に、災害時に使えるレシピ、そして普段の生活でも使えそうなレシピを考案した。自宅に備蓄している非常食の賞味期限が切れそうな場合に活用できると思う。実際に調理してみると作業工程や完成した料理の味、食感などがよくわかり、課題点が見つかった。災害時は電気やガスの使用に制限があり材料も限られているため、今後はさらに調理方法を手軽なものに変更できないか話し合っていくつもりだ。

私たちちは和歌山市消防局防災学習センターを見学し、職員の方からお話を聞いた。防災グッズや備蓄品について学びを深めることができた。学校にいるときに被災した場合、何が必要であるのか教えていただいた。日高高校にある備蓄品について、モバイル充電器を導入したり、今後さらに充実したものにするために何をどれだけ蓄えておくべきか考察していきたい。

【国際社会と地域】

私たちの班は一時停止の道路標識を外国人にもわかりやすくしたいと考えていたので、まず田辺警察署でお話を伺った。交通標識は変えることが難しく、案内標識ならば変えていくことが可能であることがわかった。次に田辺市役所に伺った。田辺市では、熊野古道を訪れる外国人観光客向けに案内標識を作成し、設置する取り組みを約20年前から行っている。ひと目見て熊野古道の案内標識であるとわかるように、統一感を出すことが重要だそうだ。伝わりやすい標識を作るコツを担当の方から教えてもらうこともできた。私たちも日高高校を訪問してくれた外国人にわかりやすい案内標識を作りたいと考えている。

私たちの班はアメリカやオーストラリア、中国出身の外国人にインタビューをし、梅干しの認知度について調べた。梅干しを食べたことのある人の中には、味が気に入ってまた食べたいという人と、また食べたいとは思わない人があった。世界各国の料理と梅干しを組み合わせることができれば、梅干しの人気が高まると考える。今後は、海外で梅関連の製品を流通させる方法や梅の人気がある地域について考察し、国内外での梅産業がより活発になるような提案を考えていきたい。



2年生の探究活動は1月20日の探究活動発表会（分科会）と2月6日の探究活動発表会（全体会）に向けていよいよ大詰めです。各グループは結果の分析や考察を十分に行い、**発表会に向けて独自のアイデアをまとめ上げていくことを期待しています。一人ひとりが探究を『ジブンゴト』として捉え、最後まで楽しんで取り組みましょう。**